

[05_5] 図書館情報 : 九州大学附属図書館月報 :
5(5)

<https://doi.org/10.15017/18021>

出版情報 : 図書館情報. 5 (5), pp.29-34, 1969-05-20. 九州大学附属図書館
バージョン :
権利関係 :

図書館情報

1969.5

The Kyushu University Library Bulletin

Vol. 5, No. 5

マルクス生誕 150 周年記念出版について

柳 春 生

本年5月5日はカール・マルクス生誕151周年にあたる。(なお、4月22日はレーニン生誕99周年であった。) 昨年は150周年であったがために、各国で記念出版がなされ、かなりの力作が出された。なお、一昨年が資本論刊行100年にあたっていたので、また、関連したさまざまな企画がおこなわれた。そこで、これらの出版について若干紹介をおこないたいのであるが、もうおおむね忘れかけている過去の出版物と関連させて述べてみよう。まず第一に、マルクス・エンゲルス全集版の刊行状態を過去から現在まで追跡しよう。

マルクス・エンゲルス全集については、日本では戦前に改造社から27巻と別巻、補巻各1冊が出された。戦後は選集が出版されているが、たしかに日本の社会の要請にこたえたといえる。ソ連はすでに戦前にマルクス・エンゲルス全集 K. Маркс и Ф. Энгельс Сочинения. 29巻を出していた。これは現在までソ連の諸文献に引用されているのできわめて重要であるが、すでに絶版で入手困難である。ソ連は戦後これを改訂して、全集39巻と初期論文集 (Из ранних произведений) ならびに索引 (Алфавитный Указатель) を出したが、さらに昨年末に補巻として第46巻第1部を出した。10巻13分冊の増補となるようである。

この改訂されたロシア語版に対応して、ドイツ民主共和国のマルクス・レーニン主義研究所編 Marx-Engels Werke は全39巻、補巻 (Ergänzungs Band) 2冊と索引 (Verzeichnis) をもって1968年に刊行を終了した。邦訳は20巻までと資本論の部分、第23巻から第25巻までのみ出ている。この全集は、しかし、本当に完全なものとはいえない。すなわち、マルクス・エンゲルスのすべての著作は必ずしも全部がドイツ語で表現されているとは限らない。「哲学の貧困」はフランス語で、「フランスにおける内乱」は英語で表現されている。しかるに、この全集ではことごとくドイツ語で表現されている。その他、著作を準備するための草稿等がかなり洩れている。「資本論」ですら、初版が入っていない。その意味では、この全集版は改訂・増補されねばならないであろう。

マルクス、エンゲルスの重要な草稿は、かってフランツ・メーリングによって、Aus dem Literarischen Nachlass Marx-Engels. 3 Bde. (1901. F. Mehring, Vorwort.) に収められて出版されたが、そういう遺稿、ノート、書簡を含めた真に良心的な企画によるマルクス・エンゲルス全集は、かってソ連のマルクス・エンゲルス研究所リヤザノフ (Д. Рязанов) とアドラッキー (В. В. Адоратский) によって編集され、そして Marx/Engels Gesamtausgabe としてドイツで1927年から刊行された。これはつぎの3部門に分けて準備された。

Erste Abteilung : 著作と草稿 (Werke, Schriften)

Zweite Abteilung : 資本論とその準備のための労作集

Dritte Abteilung : 書簡集

Vierte Abteilung : 総索引

しかし、この事業は、第1部が第7巻まで、第3部が第4巻まで出版されたにとどまり、その他はナチス政権の出現によって中止された。日本には、このうち第1部第7巻のみが到着しないままになっていたようであるが、現在では第1部全7巻が複刊されている。しかし、高価である。第1巻と第2巻がリヤザノフ編、第3巻以降がアドラッキー編となっている。第3部全4巻もいま複刊が予告されているが、これはマルクス・エンゲルス往復書簡集で、第3巻までがリヤザノフ編、第4巻がアドラッキー編となっている。

これと並んで、リヤザノフ、アドラッキー監修によるマルクス・エンゲルス・アルヒーフが重要である。これは、マルクス・エンゲルスの重要な草稿とともに、マルクス・エンゲルスにかんする貴重な研究論文を含んでいる。これには独文、露文2種類があり、独文 Marx-Engels Archiv は

D. Rjazanov 編で2巻より成り、1927年に Frankfurt A. M. で出版されている。露文 Архив К. Маркса и Ф. Энгельса. は、第1巻(1924年)から第5巻(1930年)まではリヤザノフ編で、それ以後さらにマルクス・エンゲルス研究所によって続刊され、第1巻(1932年)から第5巻(1938年)までがアドラッキー編、第6巻(1939年)と第7巻(1940年)が B. M. Митин 編となっている。それ以後はとくに監修者名なしに続刊されたが、第9巻のみが1941年に出版され、大祖国戦争によって中断されて戦後に第8巻(1946年)が出され、つづいて第10巻(1948年)から第15巻(1963年)まで刊行され、これにて完了したかに見えたが、1968年に第16巻としてマルクスの Математические Рукописи (「数学にかんする手稿」) が突然出された。そして、この全20巻のうち、リヤザノフ編全5巻とアドラッキー、ミーチンによる続刊第1巻から第11巻まで現在日本で復刊されている。(ただ、第11巻の如きは原著では150円で買ったのにゼロックスの写真版では数千円となっている。)かの「フランスにおける内乱」の原文(英文)はアドラッキー編第3巻に収められている。

マルクス・エンゲルスの完全な全集版はいま約100巻の予定で新たに企画されているときくが、そうであれば、上述の Gesamt Ausgabe と Archiv の全内容は是非とり入れてもらいたいものである。

つきに、マルクス・エンゲルスにかんする研究の現状を検討・紹介しよう。

まず第1にマルクス・エンゲルスの伝記であるが、これは、戦前から Franz Mehring, K. Marx. Geschichte Seines Leben. が著名であった。この書は、先年出版された Franz Mehring Gesammelte Schriften. Bd. 3. のなかに収められている。ソ連は、スターリン時代にはこの書については、プロレタリア独裁にかんするマルクスの理論の正しい認識を欠いているという批判のゆえに評価しなかったが、その後この労作の価値を認め、露訳 Ф. Меринг, Карл Маркс. История его жизни. 1957. を出版している。日本でも栗原佑氏の訳がある。エンゲルスの伝記では、Gustav Mayer, Friedrich Engels. 2 Aufl. Haag. 1934. が2巻よりなるきわめて詳細なもので、久しく絶版状態であったが最近再版されている。その他、マルクス・エンゲルスの小伝では、改造社版マルクス・エンゲルス全集第1巻に収められ、また岩波文庫にも収録されている、リヤザノフ氏による「マルクス・エンゲルス伝」、ついでソ連大百科辞典第26巻の K. Маркс の英訳 E. Stepanova, Karl Marx. Short Biographie. 1956. が出ている。ステパーノワ「フリードリヒ・エンゲルス」(永住道雄訳、1936年、叢文閣)は、大事な個所を検閲で切られ、伏字になっているが、幸に1956年にソ連で簡潔な体裁で改訂版 E. A. Степанова, Фридрих Энгельс. がその英訳(1958年)とともに出版された。

現在マルクスの伝記(並に研究)には、ラスキ「カール・マルクス」(角川文庫)、カー「カール・マルクス」、ルフェーブル「カール・マルクス」、コルシュ「マルクス」が翻訳紹介されているが、いづれも若干の偏向をもっているようである。真に高水準の精緻をきわめた労作といえるのは、Auguste Cornu, Karl Marx und Friedrich Engels. Leben und Werk. Bd. 1. 1818—1844. (1954) Bd. 2. 1844—1845. (1962) Bd. 3. 1845—1846. 1968. であろう。これは、かつてのリヤザノフ、アドラッキーに比肩する著大なる仕事である。向後の進行が期待される。このほか John Lewis, The Life and Teaching of Karl Marx. 1965. (独訳、1968年) Heinrich Gemkow, Karl Marx. Eine Biographie. 1967. ならびにソ連マルクス・レーニン研究所編 Карл Маркс Биография. 1968. があげられるが、とくに後者はマルクス生誕を記念するにふさわしい良書といえる。

経済学や資本論にかんすることは私の専攻でないから省略するが、これまでマルクス・エンゲルスの理論的研究には、日本でも外国でも初期にかんするものが圧倒的である。例えば、淡野安三郎「初期のマルクス」、広松渉「マルクス主義の成立過程」、大井正「唯物史観の形成過程」などそうである。国外での研究にしても、コルニュ「マルクスと近代思想」、オイゼルマン「マルクス主義と疎外」、マルクーゼ「初期マルクス研究」等が紹介されている。このような傾向については、かつてソ連の「歴史の諸問題」誌(Вопросы Истории) 1955年第3号の論文「科学的社会主義の発生史の研究について」も指摘しているように、あまりにも初期マルクスの研究にのみ没頭してはならないのであって、マルクス・エンゲルスの思想の成熟した時期の研究こそ重要視されねばならない、といえるであろう。このような観点にたつ労作は、これまで数少なく、例えばアドラッキーの論文集(B. B. Адоратский, Избранные Произведения. 1961.), よびお W. A. Turetzki, Die Entwicklung der Anschauungen von Marx und Engels über den Staat. 1956. を数えるぐらいであ

る。だが、こんどマルクス生誕150周年を記念して出された出版物はかなり従来のこの欠陥を克服しているといえる。

マルクス生誕記念出版で異論なく力作とみられるのは、Deutsche Akademie für Staats- und Rechtswissenschaft „Walter Ulbricht” 編 Karl Marx Begründer der Staats- und Rechtstheorie der Arbeiter-Klasse. (Aktuelle Beiträge anlässlich des 150. Geburtstages von Karl Marx.) 1968. とソ連科学アカデミ歴史学研究所編 Маркс Историк. (К 150—летию со дня рождения Карла Маркса) 1968. であろう。いずれも論文集であるが、前者にかんしては、Karl Polak, Karl Marx über staat, Eigentum und Recht. Wolfgang Weichert, Die Analyse über das Wesen der Pariser Kommune und ihre Bedeutung für unseren sozialistischen Staat der Gegenwart. 二つの論文が力作とみられる。とくに、ポラーク教授は先年逝去された惜しむべき碩学であるが、彼のこの水準高い研究論文がのせられたのは喜ばしいかぎりである。後者にかんしては、M. M. Карлинер, Этапы развития Марксовой Методологии изучения рабочего Движения. А. И. Молок. Карл Маркс за работой над историей парижской Коммуны. が第一インターナショナルとパリ・コミューンにかんする詳細をきわめた歴史的研究として注目される。その他、ソ連科学アカデミ国家と法研究所 В. М. Чхиквадзе 監修 Карл Маркс о государстве и праве. 1968. があるが、マルクスの記念出版としてはあまりにも少著である。最後に、見落してならぬ労作には、The Hebrew University, Jerusalem の Shlomo Avineri, The social and political thought of Karl Marx. 1968. Cambridge University Press. がある。マルクスの社会主義思想にかんする全般的の研究であるが、とくにいままでほとんどとりあげられなかったマルクスのフランス大革命観にかんする研究はきわめて貴重である。

以上で、紙数も超過するので筆をおくが、おそらく、次年はレーニン生誕100年記念となるから、また国際的に記念出版で力作が出ることを期待している。

—1969. 5. 10—

(やなぎ・はるお; 産業労働研究所教授, 附属図書館商議委員)

第20回(昭和44年度)九州地区大学図書館協議会

〈とき: 昭和44年5月8~9日 ところ: 熊本商科大学図書館〉

加盟31館(国立10, 公立6, 私立15館)中, 28館(私立3館欠席)の館長, 司書ら60名が出席して開催された。当番館の鱈淵学長, 甲斐館長の挨拶のあと, 国・公・私立大学から3名(鹿児島大学・丹下館長, 熊本女子大学・山本館長, 熊本商科大学・甲斐館長)の議長団を選び, 議事に入ったが, まず, 西日本工業大学の新規加盟が承認された。ついで, 幹事館の九州大学山崎事務部長より館界一般情勢の報告があった。また, 幹事館より提出された昭和43年度決算報告が承認されたあと, 昭和44年度予算案については, 会誌の購読の形で収入増をはかることを付帯条件として可決された。研究発表は, 熊本大学竹熊受入掛長の「紀要報告類の利用について」と, 九州大学長尾整理課長の「米国大学図書館の動向」の2論題があり, とともに, レファレンス・サービスの重要性に触れ, 感銘を与えた。引続き表彰行事にうつり, 21名の勤続者が表彰された。九州大学関係者は別掲のとおりである。

協議は終始活発に行なわれ, また, 国・公・私立の3部会での討議も有意義であった。特に, 宮崎大学津田館長より出された「新しい大学像の中における図書館の位置づけについて」の緊急提案は, 大きな関心をよび, 昭和44年度国立大学図書館協会総会に九州地区より提出する協議題の第1とすることになった。この他, 「大学施設基準に図書館の冷房を入れるよう要望する件」, 「学生用図書購入費について」, 「夜間開館のための人員増について」, 「参考業務について」の各件についても, 国立大学図書館協会総会に協議題として提出されることになった。また, 次期当番館は, 久留米大学と決まり, 会誌の質的向上を目的として設けられる編集委員会の構成は, 福岡地区内で考慮することとし, 人選等について幹事館に一任された。

被表彰者(九州大学関係)

船越惣兵衛 真武京介(退職者)

安川恒子, 甲斐一枝, 杉 雅子, 久保昭夫, 山下政子, 保田俊輝。(20年以上勤続者)

学内図書館めぐり

文学部図書室 (その1)

中央図書館、医学部図書館、教養部図書館の後をうけて文学部図書室のことについて本欄に寄稿せよとの依頼を受けたので、前記諸図書館の例にならって所謂図書館史的意図のもとに稿を起したが、いざ資料採訪の段階に至って厚い壁に突き当たってしまった。わが九州大学では昨年来全国的な徴候として勃発した学生問題に魁けて、エンプラ事件、米軍機墜落事件、等に端を発した学内紛争は日を迫るに従いよいよ熾烈を極め、数度にわたる学部封鎖の憂き目



文学部の全景

を見るに至った。ために種々の事務機能は麻痺状態を呈し、確かな史的根拠となる諸事績、記録類の重要書類は分散疎開を余儀なくされ、過去の事実を調査することは全く至難なこととなってしまっており、到底40幾年なんなんとする過去のことを緝くことは困難な現状におかれている。従って編集部の意図に反し不本意ではあるが今回は文学部図書室の現況紹介程度にとどめさせていただき、その責を果したいと思う。このような事情で学部図書室の現況について記すことになったが、それに先だち図書館業務に密接な関係をもつ幾つかの学部の実態について記しておくたい。

本学部は大正13年9月、法文学部の一学科（文学科）として発足し、大正14年4月、法文学部本館完工とともに正式開講され、昭和24年4月、文学部として独立現在に至っている。その間建物・設備も旧法文学部の老朽校舎から、昭和39年7月、種々新しい構想をとり入れて設計された、正しく西日本における文科学術の殿堂としてふさわしい環境を誇る新館に移転している。講座数も創設以後逐次増加し、現在学科数、哲学科、史学科、文学科の3学科、講座数23を数え、外に1研究施設を付設している。

学科・講座内容は次のとおりである。

1. 哲学科

哲学哲学史第1, 第2, 第3。印度哲学史。中国哲学史。倫理学。美学美術史。社会学。宗教学。心理学（実験講座）。

1. 史学科

国史学第1, 第2。東洋史学。西洋史学。考古学（実験講座）。

1. 文学科

国語学・国文学第1, 第2。中国文学。英語学・英文学第1, 第2。独文学。仏文学。

外に付属施設、九州文化史研究施設からなっている。又図書館利用対象者である職員構成及び学生数を記せば次のとおりである。

1. 職員数

教授20名。助教授18名。助手23名。臨時講師35名。外人教師3名（英, 独, 仏）。事務職員41名によって構成されている。

1. 学生数

大学院学生151名。学部学生420名。別科生56名を数える。

以上学部の実態について学部図書室の利用に係る諸項を摘出略記したが、これらの利用者を擁

する学部図書室の現況について、次下順序不同ではあるがご紹介することとする。

1. 職制及び職務分掌

文学部図書室の前身は前述のように遠く法文学部時代に遡る。当時は「図書整理室」として「研究事務室」と称し事務系列の職制の上ではあいまいな存在であったが昭和35年1月、職制整備によって一掛として職制内に編入され、文学部事務分掌規則のもとに図書業務を分掌することとなった。図書掛の業務については同規則第7条に次の10項目からなる諸項が義務付けられている。文学部事務分掌規則、第7条。

1. 雑誌等の購入手続きに関する事。
2. 図書等の分類整理に関する事。
3. 図書等の保管簿の記帳及び保管に関する事。
4. 図書等の保管・閲覧及び貸出に関する事。
5. 図書等に関する調査統計その他諸報告に関する事。
6. 文献の相互貸借及び複写に関する事。
7. 紀要及び研究報告等に関する事。
8. 研究資料のしゅう集に関する事。
9. 教材の作成配布及び整理保存に関する事。
10. その他図書の管理に関する事。

1. 図書職員の構成

掛長1名。

図書館専門職員4名(司書3, 司書補1)。

一般事務職員1名。

技術職員1名(写真工),

臨時職員1名

計8名が配置されている。

以上重点項目を系統的にご紹介したかったが資料整理不十分なため乱雑な稿に終わってしまった。又序章に駄弁を勞し過ぎ基本的項目の極く一部にとどまってしまった。与えられた紙数の都合もあり他の項については次回に譲らざるを得なくなってしまった。

昭和43年度受人欧文参考図書

— 中央図書館 —

BIBLIOGRAPHY

Bibliografia nazionale italiana; catalogo alfabetico annuale, a cura della Biblioteca nazionale centrale di Firenze. Vol. 6, 1963. Firenze, 1967.

Deutsche Bibliographie; Fünfjahres-Verzeichnis, 1951-1955. Tl. 1 (Lfg. 16)-2 (Lfg. 1) Frankfurt am Main, Buchhändler-Verl., 1968. 2 v.

Index translationum; répertoire international des traductions-international bibliography of translations. 19 (1966) Paris, UNESCO, 1968.

International House. Library.

Union catalog of books on Japan in western languages, ed. by Naomi Fukuda. [Tokyo] The Lib., 1967.

Primo catalogo collettivo delle biblioteche italiane. Vol. 5. Rome, 1967.

Tokyo University. Historiographical Institute. Historical documents relating to Japan in foreign countries: an inventory of microfilm

acquisitions in the Library of the Historiographical Inst. (Shiryô Hensan-jo) Vol. 9-11. Tokyo, 1968.

Ежегодник книги СССР, 1965—1966; систематический указатель. Том 1—2; Том 1. Москва, Изд-во “Книга,” 1966—1968. 3, v.

INDEXES & ABSTRACTS

British humanities index, 1967. Issued by the Library Association. Betty M. Mason, ed. London, Library Assn., 1968.

British technology index, annual volume, 1966. Ed.: E. J. Coates. London, Lib. Assn., 1967.

Engineering index (registered United States, Great Britain, and Canada) 1967.

New York, Engineering Index, c1968. 2 v.

ENCYCLOPAEDIAS

Britannica book of the year, 1968.

Chicago, Encyclopaedia Britannica, c1968.

The Encyclopaedia of Islam.

New ed. Vol. 3. Fasc. 49/50—51/52.
Leiden, Brill, 1967—1968. 2 v.

Encyclopedia of world art. [Vol. 15]
New York, McGraw-Hill, c1968.

Grand Larousses encyclopédique. Suppl.
Paris, Larousse, c1968.

McGraw-Hill yearbook of science and technology, 1968; comprehensive coverage of the important events of 1967 as compiled by the staff of the McGraw-Hill encyclopedia of science and technology. New York, McGraw-Hill, c1968.

International encyclopedia of social science. Vol. 1—17. David L. Sills, ed. [New York] Macmillan; Free Press, c1968. 17 v.

DIRECTORIES

The world of learning, 1967—68.
18. ed. London, Europa pubs., c1968.

YEAR BOOKS

Daily mail year book, 1969. 69th year of publication, Ed. by G. B. Newman.
London, Associated Newspapers, c1968.

Great Britain. Central Office of Information. Britain; an official handbook. 1968 ed. London.

The Statesman's year-book; statistical and historical annual of the states of the world for the year 1968—1969. Ed. by S. H. Steinberg. 105th annual pub. rev. after official returns. London, Macmillan; New York, St. Martin's Press, 1968.

Korea annual, 1966.
Seoul, Hapdong News Agency, c1966.

Handbook on the international exchange of publications. [3. ed.] [Paris] UNESCO, 1964.

BIOGRAPHY

American men of science; a biographical directory. 11. ed. [Vol. 6] New York, R. R. Bowker, 1967.

Who's who, 1968; an annual biographical dictionary. 120th year of issue. London, Adam & Charles Black, c1966.

DICTIONARIES

De Sola, Ralph.

Abbreviations dictionary; abbreviations, acronyms, anonyms contractions, initials and nicknames, chort forms and slang shortcuts, signs and symbols...

New rev. & enl. international ed. New York, Meredith Press, c1967.

Dictionary of Russian technical and scientific abbreviations with their full meaning in Russian, English and German. Amsterdam, Elsevier, 1968.

Harrap's standard German and English dictionary. Ed. by Trevor Jones. Pt. 1, Vol. 2. London, Harrap, 1967.

A Sanskrit-English dictionary. By Sir Monier Monier-Williams. New ed. Oxford, Clarendon Press, 1964.

LIBRARIES

Handbook of special librarianship and information work. 3. ed. [Completely rev.] Ed.: Wilfred Ashworth. London, Aslib, 1967.

Kent, Allen, ed.

Encyclopedia of library and information science. Vol. 1. New York, Marcel Dekker, Inc., c1968.

◆ 人事異動

図書系職員の異動

44.5.1 庄野英三 (併任法学部図書掛長)	図書掛長の併任を解除
〃 落石 清 (教養部分館閲覧掛長)	法学部図書掛長へ配置換
〃 長 和栄 (整理課目録掛)	教養部分館閲覧掛長へ昇任
〃 井上絢子 (〃)	教養部分館受入目録掛へ配置換
〃 花田洋子 (教養部分館受入目録掛)	整理課目録掛へ配置換

九州大学附属図書館月報「図書館情報」Vol. 5, No. 5. (通巻44号)

1969年5月20日発行・発行人 山崎 正

発行所 九州大学附属図書館・福岡市大字箱崎 3576・〒811②・電話代表 ㊦ 1101 内線 5301